

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170500039		
法人名	社会福祉法人 伊万里敬愛会		
事業所名	グループホーム椎の木の家		
所在地	佐賀県伊万里市黒川町小黒川145番地1		
自己評価作成日	平成22年2月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年3月5日	外部評価確定日	平成22年4月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・古い民家改修型で、利用者が生活してこられた馴染みの落ち着いた雰囲気があり、立地場所としても目の前に湖上公園があり、四季折々に花が楽しめ、又、海にも近く風光明媚な環境にある。</p> <p>・地域住民の方がいつも気軽に訪問されたり、行事にもたくさん参加していただいたりと関係が密接で地域に根づいている。</p> <p>・地区の区長さんが3名も運営推進会議のメンバーに入っているため、事業所として地域の行事他いろいろな情報が得られ、又地域の方が事業所の内容や認知症に対する理解があり何かと協力が得やすい。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>民家改修の日本家屋の落ち着いた佇まいである。周りには、鯉の泳ぐ池や四季の花が植えられた美しい公園がある。病院・銀行・郵便局・商店などが近くに揃っている。</p> <p>入居者に事業所を自宅の延長であると感じてもらうために、職員は「普通の生活」を提供しようと努めている。日々のケアの中で自問自答を繰り返しながらもチームワークの良さが互いを助け、ひいては入居者の心の安定へも繋がっている。</p>

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「認知障害があっても、一人一人が地域の中であたり前に暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく。」という理念を毎朝申し送り前に、出勤職員全員で唱和し、実践につなげている。	開設時に皆で考えた思いが理念となり、日々のケアの基本として受け継がれている。職員は地域密着型サービスの意義を十分に理解し、常に意識しておくためにも目に付く場所への掲示や、毎朝の唱和を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(祇園祭、ふるさと祭り等)に進んで参加し、地域の人々との交流に努めている。ホームの行事(夏祭り、消防訓練等)にも参加してもらっている。	自治会へ加入し地区の行事にも参加している。近隣住民の日常的な立ち寄りも多く、おすそわけしたりの間柄が出来ている。また、事業所の行事にも多くの近隣住民の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	夏祭り等に招待したり、地域の行事に参加することにより、認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間行事やサービスの状況、利用者の近況外部評価他の報告等を行い、話し合っ意見を聞き、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、奇数月の最終火曜日を開催日と決め、メンバーの予定も立て易いようにしている。開催日前にはハガキで連絡もしており、約8割のメンバーが出席している。会議は意見も活発で、区長や民生委員の日頃の疑問に市側の出席者が答えるなど、事業所内の話に止まらず広く意見交換をする場ともなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長、事務長は市役所など関係機関と関わりを多く持ち、常に連携を図り、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議には同じ担当者の出席があることから、日頃より顔なじみとなり相談事も持ち掛け易い関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故防止委員会の中で身体拘束防止について話し合いホームの会議等で伝達し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員は身体拘束をしないケアを十分に理解しており、見守りと連携プレーで実践している。玄関の施錠などはなく、入居者が外へ出た場合も一緒について行くなど安全面に配慮して、自由な暮らしを支えるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事故防止委員会の中で虐待防止について話し合い職員勉強会等で伝達し防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には参加しているが、現在対象者がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設長、事務長、部長、ケアマネ、管理者が対応し必要であれば医師から直接説明をしていただき、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の折に利用者家族と一緒に話をしたり、又各行事への参加を呼び掛け意見・要望を聞ける機会を設け、又職員へ報告しサービスの向上に努めている。	家族が事業所を訪れる機会は多く、職員は話し易い雰囲気作りを心掛けている。意見や要望があれば前向きに捉え、スタッフ会議から改善までを速やかに行うように努めている。また、事業所の外に意見や苦情を表せる窓口があることも説明している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議にて、職員の意見を聞く機会を設けたり、日常業務の中でもできるだけ耳を傾け反映させている。	月1回のスタッフ会議には非番者も出席し全員参加としている。短時間で内容の濃い会議とするために職員は事前に意見、要望を無記名で提出している。管理者はそれを基に効率よく進行し、最近ではターミナルケアについて話し合われていたことが実際の看取りへと繋がった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	非常勤から常勤への登用や処遇面、福利厚生、研修等、常勤と非常勤職員との差別をせず平等に行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社協他法人内外の研修にはできるだけ参加させ知識や技術を深めてもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や会議等の折に意見交換する機会をつくりサービスの質の向上につながるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に十分な情報収集を行い、受け止め、体験入居してもらい、納得してもらって利用してもらおう。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に家族から十分な情報収集を行ったり、見学してもらい、事業について十分な説明を行い、要望等に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の一番の要望を聞き、職員全員で話し合い、他のサービスを含め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で、利用者から生活の知恵を聞いたり、一緒に食事をしたりお茶を飲みながら寄り添い、その方の話に傾聴したりして、人間関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や、行事参加の折に家族の方のお話を聞き、利用者の方をより理解し、一緒に支えていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、お友達がいつでも自由に面会に来ていただけるように心がけている。使い慣れた家具などを居室に置き馴染みの場所の確保に努めている。	入居者が自宅辺りへ立ち寄りしたりした場合に、職員は近所の方へも声を掛け事業所への訪問もお願いしている。また、家族との会話から、これまでの人間関係等の把握にも努め、出来る限りの支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人とのソファの座る位置等に気を配ったり、レクレーションの時など利用者全員が参加できるよう計画をたて、孤立されないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	地域の方には、夏まつりなどへの参加をお願いしたり、長期入院された場合等はお見舞に伺ったり家族に近況をお尋ねしたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	会話の中での思いや表情を見逃さず、又来訪された折の家族との会話の中から、思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めたい事実現につなげている。	職員は入居者に寄り添い、目線を合わせ、言葉を聞き逃さないように努めている。また、「誕生日の願い事」として、その時には何かひとつでも思いを叶えてあげたいと日々のケアから真摯に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や家族との会話により、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、ケース記録、排泄記録、健康チェック表により現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎日の業務日誌やミーティングや家族との会話の中から担当者が課題を考え、ケアプラン会議に於いて、職員全員で話し合い介護計画を作成し、家族に提示し了解を得ている。	通常は6ヶ月毎の見直しではあるが、本人や家族の要望、変化があれば臨機応変に見直しをしている。本人がよりよく暮らしていけることが基本と捉え、職員全員で話し合い介護計画が作られている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録に特変時の状況を記録し、又ケアプラン実施表により評価し介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族を交えての外部での敬老祝賀会や温泉旅行、又体調不良時の病院受診等家族対応が不可能なときも含め、職員の勤務体制を変更したり、勤務時間を延長したりして柔軟な支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアをお願いしたり、消防訓練等の折に関係機関や地域の方の協力をお願いし協働している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4ヶ月に一度の健康診断と月1回の検診を受けている。	入居と同時に協力医をかかりつけ医としている。入居者によっては以前に通っていた医者から変更を勧められることもあるが、それは事業所と協力医が徒歩数分の近さであり、安心感を得られていることも大きな理由となっている。受診は職員の同行が多いが、家族への結果報告は当日中に速やかに行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	椎の木スタッフの看護師や病院受診の折に現状を報告・相談し指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院と随時連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院の主治医との連携を図り、家族等とも話し合い、方針を共有している。	本人や家族、事業所の状況の変化の度に話し合いを繰り返すようにしている。本人や家族の希望があれば看取りをする用意はあり、先日初めての看取りを行った。最期まで関わったことで職員の意識にも変化がみられ、様々なことが学べたかけがえのない経験となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修等で学んだり、看護師により職員勉強会等で訓練し、実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方も参加してもらい、避難訓練等を行っている。	マニュアルを作成し、年2回の消防訓練と、年1回の災害訓練を行っている。どちらの訓練も運営推進会議の日程に合わせ、出席メンバーに加え近隣住民の協力もお願いしている。消防署員から毛布を使った避難介助方法を習ったり、冠水を想定しての避難経路を確認したりと実践的な訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「認知障害があっても、一人一人が地域の中であたり前に暮らしながら、人間の尊厳を大切に生きていく。」という理念の基に対応している。記録等は鍵のかかる書棚に保管している。	理念を常に意識し、年長者として敬意を払っている。援助が必要な時もさりげない誘導や声掛けを行っている。ホーム便りに掲載するスナップ写真等は入居時に家族からも了承を得ており、個人情報等にも配慮されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方の言葉で話しかけ、その方の希望に添った支援を心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あまり時間にとらわれず、ゆっくりしたペースで、会話を大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、整容化粧をし、訪問美容を利用し、本人の好む髪型にカットしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングにも、料理のおいしい香りがし、又準備等を手伝ってもらい、季節の物、行事食に心がけ、又会話の中で食べたい物を聞き対応できるようにし、全員で食事をする。	献立は入居者の希望を尋ねたり、近所から届けられた野菜をみて考えたりと皆で相談しながら決めている。調理、片付け等は以前より入居者の体力が低下しているものの出来る範囲で一緒に行っている。同じテーブルを囲み、楽しい雰囲気作りにも努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に応じ、量、栄養バランスを考え配膳し、水分の嚥下が悪い人にはトロミをつけたり、刻みにしたり、おにぎりにしたり、ふりかけを利用し、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所にて入れ歯洗浄フォームや、歯磨き粉等にて歯磨き、うがいを行っている。自分でできる方は見守り、出来ない人は職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表により、個々の排泄パターンを把握し、待つことにより、排泄のサインがわかるようになった。	日々の関わりの中で入居者の微妙な表情や仕草から排泄のサインをキャッチしている。さりげない誘導や歩行介助でトイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を毎日の体操等で取り組んでいる。又排便チェックを行いその人に応じた下剤の服用をしている。又施設の栄養士や看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	望まれる入居者には毎日の入浴が提供できる。入浴に応じられない場合は無理をせず、清拭で対応している。又一番風呂を希望される方には、一番に誘導するように心がけている。	時間帯は昼間となるが毎日の入浴を心掛けている。入居者の性格や好みに応じて無理のない誘導を行い、ゆっくりと湯に浸かってもらうための工夫もしている。浴槽での立ち座りや出入りをサポートするためのバスマットを用意しているのもそのひとつである。脱衣場は広く、寒さ対策の暖房や、着る前に肌着を少し温めたりと細かい配慮もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室内の温度や明かりに気を配り、就寝前の排泄、お茶等でゆっくり休んでもらえるようにしている。又コタツ等にて休息してもらったり、又眠れない方には、職員が寄り添い安心して休んでもらえるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については、薬剤の写真付の説明書で理解している。薬はホームで管理し服薬まで確認し、症状の変化は月一回の定期検診で報告したり、電話にて医師に報告している。下剤服用者には排便のチェックを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、たたみ、掃除、食事の準備等仕事をしたほうが落ち着く方と歌等で落ち着く方に合わせて支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の会話を聞き、希望にそって出かけられるように支援に努めている。又花見、コンサート、初詣、ふるさと祭り等願い事実現事業で家族の方の協力を得て、外出支援を行っている。	何気ない会話の中から入居者の気持ちを汲み取り、出来る限りの支援に努めている。事業所の外へ出る入居者への対応も、すぐに連れ戻すのではなく暫く一緒に歩き納得するのを待っている。また、行事として皆が出掛ける場合は事前に家族の出席も確認し、近くの系列施設のバスを利用するなど工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「ジュースが飲みたい」「お菓子が買いたい」等希望される場合は一緒に買い物に出かけている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取り継ぎ、手紙の受け取りの支援をしている。手紙を出すことは支援できていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和風家屋を最大限に生かした民家改修型で、家具調度品も木質が中心で、家庭的で落ち着いた雰囲気心がけている。	和風住宅を改修した利点を踏まえ、自宅のように懐かしく感じてもらえるように配慮されている。居間からは庭の花々や飼い犬も見え、室内にはお雛様や桃の花を飾り季節を演出している。トイレなどもきれいに掃除され臭気は全くない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの配置やリビングの畳のコタツ等を活用し、一人一人の居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類を含み、何でも持ち込み自由で、家族の写真や飾り、仏壇を持参され安心して生活ができるよう心がけている。	ベッドやタンスなど持ち込む物に制限はない。入居者はそれぞれ馴染みの物を傍に置き、居心地よく過ごせるように支援されている。各居室には風邪対策もあり加湿器が設置されている。広さは、家族の宿泊にも十分に対応できるものである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室には、手すり、昇降椅子、シャワーチェアを利用し、各居室の段差を解消し、廊下には手すりを使用し、安全かつ自立した生活が送れるように工夫している。各居室には名札、トイレにはトイレを表示し、各居室に大きな時計を掛け、カレンダー等を貼っている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない